



筑波大学 (茨城県)



◇コースの特色

(1) コースのねらい

日本語の運用能力を高める。それに加えて日本の言語と文化について幅広く学び、日本についての理解を深める。

(2) コースの形態

- ① 日本語・日本文化研修留学生向けの多くの授業科目を設けている。その他の科目でも、研修留学生の興味に応じた授業を履修することができる。
- ② 日本語と日本文化について、教室内外での実習による学習を重視している。
- ③ 修了論文の執筆を課している。(修了論文は、毎年、日本語・日本文化研修留学生修了論文集『異文化との出会い』として刊行している。)
- ④ 複数の指導教員と研修留学生ごとのチューターによる、親身できめ細かい指導を行なう。

◇大学紹介

(1) 特色と歴史

筑波大学は、東京教育大学の移転を契機に、そのよき伝統と特色を生かしながら、今日の大学に対する内外からのいろいろな要請にこたえるため、わが国ではじめて抜本的な改革を行ない、昭和48年10月に総合大学として発足しました。本学の特色である「教育と研究の新しい仕組み」「新しい大学自治」「開かれた大学」は、各方面の注目を集め、大学改革の先導的役割を果たしています。

(2) 学生数等(2008年10月1日現在)

学部名: 人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、生命環境学群、理工学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群

教員数: 学長、副学長(6名)、教授、准教授、講師、助教、助手 計 1,672名

学生数: 学群生10,187名、大学院生6,297名

計 16,484名

(3) 国際交流の実績

留学生在籍数: 1,442名(95か国)

(2008年10月1日現在)

研究者等受入数: 1,039名(2008年度受入)

(4) 日本語・日本文化研修留学生数(最近10年間)

年度	留学生数	年度	留学生数
1998年	11人	2003年	10人
1999年	12人	2004年	14人
2000年	14人	2005年	13人
2001年	15人	2006年	13人
2002年	13人	2007年	10人

(5) その他つくば市の特色

つくば市は、東京の北東60km、新東京国際空港のある成田の北西40km、北に筑波山(標高876m)を仰ぎ、東に霞ヶ浦をのぞむ自然環境豊かな地域に位置している。このなかに筑波研究学園都市がある。東京とその周辺からこの地域に移転、または新たに建設された国の試験研究機関・大学を中心とし、民間の研究・教育機関等を加え、国の施策により総合的・組織的な研究学園都市として作られている。

また、筑波研究学園都市と東京都心は、つくばエクスプレスで結ばれ、最短45分で行き来できる。

◇コースの概要

(1) 受入定員

14人

(2) コース実施期間・授業期間

2009年10月1日～2010年9月30日(1年間)

(3) 授業科目の概要

① 必修科目

(日本語・日本文化研修留学生カリキュラム)

イ) これは日本語・日本文化学類内で本プログラムのために特別に開設されている科目である。聴講の学生は研修留学生だけである。ただし、「日本語」については留学生センターのコースに参加する。

・「日本語」(中級～上級): 研修留学生の能力に応じ、日本語の読む、聞く、書く能力を高める。

・「日本語・日本文化特別研究」I、II: 研修留学生の専門テーマを決定し、年間を通して研究を進め、修了論文を提出する。

・「日本語・日本文化実験実習」: 1泊2日の野外実習を通して、日本文化に身近に接する。

・「日本語・日本文化自由研究」: 日本語・日本文化実験実習に向けて、その事前調査をし、実習後には報告書を提出する。

ロ) 専門科目
(日本語・日本文化学類教員が担当する)

・「日本の地理」: 現地の見学を行い、景観から日本の地理的特徴を考える。

・「日本の歴史」: 日本の近現代史の諸問題についてビデオ作品を見ながら日本人学生と討論する。

・「日本の慣習」: 日本の生活文化と慣習について、民俗学の立場から講義する。

・「日本の政治と社会」: 日本の近現代の政治と社会について日本人学生と討議する。

・「日本の文学」: 日本の詩歌について、自然との関わりや季節感の表現などを中心に味わうことで理解を深める。

・「日本語による文化伝達Ⅰ」: 日本の文化が感じられる言葉や表現を通して、言語から文化を考察する。

・「日本語による文化伝達Ⅱ」: 日本の現代の社会問題について調べたりビデオを見て、討論を行う。

・「日本語による文化伝達Ⅲ」: 日本人学生とともに、日本語・日本文化にかかわるテーマについて討論・対話・共同研究を進める。

・「日本人の言語生活」: 日本語慣用句の実例を見ながら、話し言葉・書き言葉における慣用句の機能・効果を考える。

ハ) 選択科目

研修留学生は日本語・日本文化学類の他の開設科目を中心に、他学類の開設科目と留学生センターの日本語科目も、担当教員の許可を得て興味のある科目を聴講することができる。

日本語

【授業科目及び授業時間数】

授 業 科 目	時間数 (前期)	時間数 (後期)	計
日本語(中級～上級)	60	45	105
日本語・日本文化特別研究Ⅰ	30		30
日本語・日本文化特別研究Ⅱ		90	90
日本語・日本文化実験実習	30		30
日本語・日本文化自由研究	30		30
日本の慣習	15		15
日本の政治と社会		15	15
日本の文学	15		15
日本語による文化伝達Ⅰ	15		15
日本語による文化伝達Ⅱ		15	15
日本人の言語生活	15		15
合 計	210	165	375

* 年度によって開講しない科目もある。

③クラス編成

「日本語(中級～上級)」のクラスについては、プレースメントテストの結果に基づいて、日本語能力別のクラス分けをする。

(4) 指導体制

①責任教員

氏 名	所 属	職 名	専 攻
江藤 秀一	日本語・日本文化学類	教授 学類長	イギリス文化・イギリス文学
砂川 有里子	日本語・日本文化学類	教授	日本語学、日本語教育
谷口 孝介	日本語・日本文化学類	准教授	日本古代の比較文学
石田 プリシラ	日本語・日本文化学類	准教授	応用言語学 日本語学
朴 宣美	日本語・日本文化学類	講 師	歴史学

②責任教員のなかで担任教員と副担任教員が決められ、親切に指導する。

③各研修留学生に日本語・日本文化学類学生が1人ずつチューターとして学業面と生活面を指導する。

④修了論文を執筆する時期には、各研修留学生に、担任教員とは別に専門に応じた指導教員とチューター(大学院生)が指導をする。

⑤全学的な組織として筑波大学日本語・日本文化研修留学生委員会があり、日本語・日本文化学類の指導体制を援助している。この委員会の委員長は日本語・日本文化学類長であり、委員は筑波大学留学生センター長ほか関係学群長・学類長の4名である。

(5) 実施見学、行事等

①行事

- ・日本語・日本文化研修留学生オリエンテーション(10月)
- ・国費留学生オリエンテーション(10月)
- ・日本語・日本文化研修留学生歓迎会(10月)
- ・学長主催留学生パーティ(11月)
- ・修了論文テーマ発表会(1月)
- ・修了論文中間発表会(5月)
- ・修了論文発表会(9月)
- ・修了式(9月)

②見学

- ・「日本の地理」地域見学実習(山梨県、3月)
- ・「日本の歴史」地域見学実習(東京八丁堀、7月)

(6) コースの修了要件、修了証書の発行

合計300時間以上履修し、修了論文を提出した者には修了証明書を授与する。

(7) 単位認定、単位互換

正規の単位は与えられないが、履修した科目名、時間数、評価及び評価基準が記載された、履修証明書を発行する。単位の互換については、帰国後、在籍大学の基準により判断される。

(8) 受講希望者の資格及び条件

日本語・日本文化研修留学生となることを希望する者は、以下の条件を満たす者とする。

①資格

来日時点で外国(日本以外)の大学の日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在籍する者。

ただし、1年生は対象外とする。

②日本語能力

日本語による授業を理解し、日本語の参考文献を読み、日本語でレポートを書き、口頭発表を日本語で行なう能力のある者。日本語能力試験2級以上が望ましい。

◇宿舎の状況

全員が筑波大学の宿舎に入ることができる。宿舎費は1か月約15,000円である。希望すれば、近くの民間アパートを借りることもできる。

◇問い合わせ先

筑波大学日本語・日本文化学類長 江藤 秀一

住所 〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

Tel +81-(0)29-853-6608

Fax +81-(0)29-853-6839

E-mail:office@japanese.tsukuba.ac.jp

<http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>

筑波大学国際部留学生交流課長 大津 孝

住所: 〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1

Tel +81-(0)29-853-6090

Fax +81-(0)29-853-6204

*プログラム内容については日本語・日本文化学類、事務連絡については留学生交流課へ